

普及現地情報

発信年月日:令和7年(2025年)9月25日
所 属 名:湖東農産普及課
番 号:F25011
発 信 者 名:川村智、堤、緒方



JA 東びわこイチゴ部会で定植前研修会を開催

9月9日、JA 東びわこイチゴ部会において、定植前研修会が開催され、部会員 19 名、JA 営農指導員等関係機関合わせて 24 名が参加しました。

研修会では今年産の育苗状況について部会全体で確認した後、R7 年産の定植後の栽培管理や「みおしずく」の出荷にかかる留意点について説明しました。多くの部会員は育苗時の高温対策を行っていますが、今年は特に暑さが厳しく、「章姫」のランナーが出にくい傾向でした。一方、「みおしずく」のランナーは比較的出やすい傾向にあり、品種によってランナーの発生状況が違うことを実感されていました。

部会員から「アイポット*で育苗する場合はカットパック*に比べて^{高い}樋からの苗の位置が高くなるため湿度がこもらず採光性が確保されやすいのではないか」、「花芽分化の状況にもよるが、定植後に水をかん水した場合は収穫時期が遅れるのか？」などの質問があり、活発な意見交換が行われました。また、「みおしずく」の高単価で取引される期間や市場出荷の取組について改めて部会員に周知し、「みおしずく」の出荷量増加に向けた依頼を行いました。

今後も、関係機関が連携し、「みおしずく」をはじめとするイチゴの安定生産と面積拡大を図ります。*:「アイポット」は円錐先丸型のプラスチックポット、「カットパック」は 4 つ連なったパックのこと



定植前の栽培管理について説明



「みおしずく」の市場出荷について依頼